

# 1 学習指導案作成のポイント

学習指導案の形式は、それぞれの学校の実態に応じて工夫しましょう。学校教育目標や研究テーマ等を指導案に意識して示すと、めざす児童生徒像がより明確になります。

特別支援学級においては、単元の内容に照らして、在籍児童生徒個々の実態と、指導の方針・評価規準・各時間のねらい等や支援の方法を関連付けて計画し指導案に明記しましょう。在籍児童生徒が複数の場合は、表にするなどわかりやすく示すことが大切です。

## 第 学年 組 科 学習指導案（例）

年 月 日（ ）

指導者

### 単元について

#### 1 単元名（題材名）

単元名は、育てたい力が分かり、児童生徒の興味・関心を高めるものにしましょう。児童生徒と共に単元名を作成することもあります。

#### 2 単元について

（児童生徒観）

単元の内容に照らして、児童生徒の実態を具体的に述べる。

「本学級の児童生徒は素直で明るく…」のような一般的な学級紹介を書く必要はありません。

（単元観）

単元の特徴、育てたい力等について具体的に述べる。

学習指導要領の内容に照らして、育てたい力を考えましょう。

（指導観）

児童生徒観、単元観を踏まえ、具体的な指導について述べる。

指導項目を絞りましょう。研究テーマを踏まえた指導も考えましょう。

#### 3 単元の目標

1単元で評価の観点すべてにかかわる目標を立てる必要はありません。単元の特徴を踏まえ、重点化を図りましょう。

#### 4 単元の評価規準

への関心・意欲・態度		
～している。		

単元の目標の文末を変えるだけでなく、育てたい力を、より具体的な児童生徒の姿として文章表記するようにしましょう。

#### 5 指導と評価の計画

時	ねらい、中心となる学習活動	具体的な評価規準・評価方法・評価場面
	単元の目標の達成に向けて、1時間ごとの学習を効果的に積み重ねましょう。	<p>評価項目は1時間1～2つに絞りましょう！</p> <p>表や記号を使うなどして簡潔にまとめ、指導と評価の計画が視覚的に把握できるよう工夫しましょう。</p>

指導と評価の一体化が求められており、指導計画だけでなく評価計画も作成し、観点別の評価規準を具体的に設定して、学習指導案に示すことが必要です。

資料として、座席表や補助簿（一人一人または抽出した児童生徒の学習状況を記録）等も添付すると、ねらいが達成できたかどうか、研究協議をする上で役に立ちます。

本時について

6 本時のねらい

ねらいははっきり

ねらいは「知識・理解」なのに、評価規準が「関心・意欲・態度」というずれがないよう、整合性を確認しましょう。

7 準備

評価の観点を意識しながら設定しましょう。

学校の教育目標（研究テーマ）等を踏まえた留意点も入れましょう。

8 本時の学習過程

	学習活動	主な発問 予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 評価（方法）と手立て
	<p>本時について、児童生徒の立場から「～する。」と示します。</p> <p>児童生徒がじっくり取り組めるよう、活動を精選しましょう。</p>	<p>発問や児童生徒の反応を予想することで、効果的な指導・支援が考えられます。</p>	<p>「プリントを配る」などの指示ではなく、本時のねらいを達成するために配慮する点を具体的に示しましょう。</p>
導入		<p>めあてもはっきり</p> <p>本時の学習への興味・関心・意欲が高まるような資料提示、発問等を工夫しましょう。</p>	
展開	<p>授業は、ねらいを達成するための中心となる活動から考えて組み立てます。枠で囲むなど、わかりやすく示しましょう。</p>	<p>ペアやグループ活動等を行う場合は、ねらいとの関連を確認しましょう。</p> <p>主活動はじっくり</p> <p>多様な考えが引き出せる発問を工夫しましょう。</p>	<p>本時の評価は、ねらいを達成するための中心となる活動で行います。単元の指導と評価の計画に示されている本時の評価規準を記入します。</p> <p>評価は具体的に</p> <p>支援を要する児童生徒への具体的な手立てを考えておきましょう。</p>
まとめ	<p>学習活動の振り返りをし、児童生徒が本時の学習について分かったことや分からなかったことが明確になるようにします。</p>		<p>児童生徒の新たな疑問や課題を全体に投げかけることで、次時への学習意欲につなげます。</p> <p>学びをつなぐ</p>

児童生徒も教員も  
ねらいを達成した喜びを感じる授業づくり